

# とらすと通信

— 営業のご報告12月号 —

2023



三井住友トラスト・ホールディングス  
SUMITOMO MITSUI TRUST HOLDINGS

# トップメッセージ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
「とらすと通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

取締役執行役社長

高倉 透



## 1. 業績の振り返りと株主還元について

当中間期の実質業務純益は、前年同期比では、19億円減益の1,663億円となりましたが、法人事業における与信関連手数料を中心に手数料関連利益が好調に推移したことに加え、株価上昇や円安等によるポジティブな影響もあり、堅調に推移しました。

このような状況を踏まえ、通期予想を5月公表時から100億円引上げ、3,300億円へと上方修正いたしました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比599億円減益の440億円となりました。

これは、デフレからの脱却が視野に入り、政策保有株式の削減活動を進めると同時に、株価下落リスクをヘッジするために保有しているベア投信のポジション縮小・再構築を行う最適のタイミングと判断したことによるものです。

これに伴い、通期予想も850億円へと修正を行いました。

なお、実質業務純益が堅調であること、資本・財務健全性へのネガティブな影響はないことから、2023年度（通期）の普通株式配当金は、5月公表時から変更はなく、2023年度予想の1株当たり220円を維持しまし

た（2023年9月末時点。最新の情報は当社ウェブサイト（下記QRコード）をご覧ください）。また、普通株式の中間配当金につきましても、1株につき110円とさせていただきます。



### 株主還元方針

一株当たり配当金は累進的としつつ、利益成長を通じた増加を目指します。連結配当性向40%以上を目安に決定します。

なお、自己株式取得については、資本十分性の確保を前提として、中長期的な利益成長に向けた資本活用と、資本効率性の改善効果とのバランスを踏まえつつ、機動的に実施いたします。

## 2. 中期経営計画の進捗について

今年度からスタートした中期経営計画では、パーパス\*のもと、「ありたい姿」の実現を目指しています。資産運用・資産管理を軸とした信託グループらしいビジネスモデルで、お客さまや社会が直面する課題を解決し、新たな価値を創出する取り組みは着実に進展しています。

上期においては、脱炭素化やデジタル整備など、課題解決に巨額の資金と長い時間を要する国内のインフラ事業を投資対象とするファンドを組成しました。当グループの多様な機能で、将来的に高いリターンが期待できる資産を発掘し、優れた投資機会の提供を通じて、豊かな未来づくりに貢献していきます。

社会課題を解決する投資を拡大するには、個人投資家の

皆さまへの展開も欠かせません。家計金融資産が長期安定的にリターンのある運用に向かうには、金融教育も必須と考えています。当グループでは、年金ビジネスを通じた資産形成サポートはもとより、高校生からシニア層に至るまで幅広い世代の投資リテラシーを高める活動に注力しています。あわせて、投資目的やリスク許容度などに合わせ、長期分散投資に適する新商品の検討を進めました。価値ある投資機会を創出し、お客さまとの長期的な信頼関係を築き、日本経済の持続的な発展に貢献していきます。

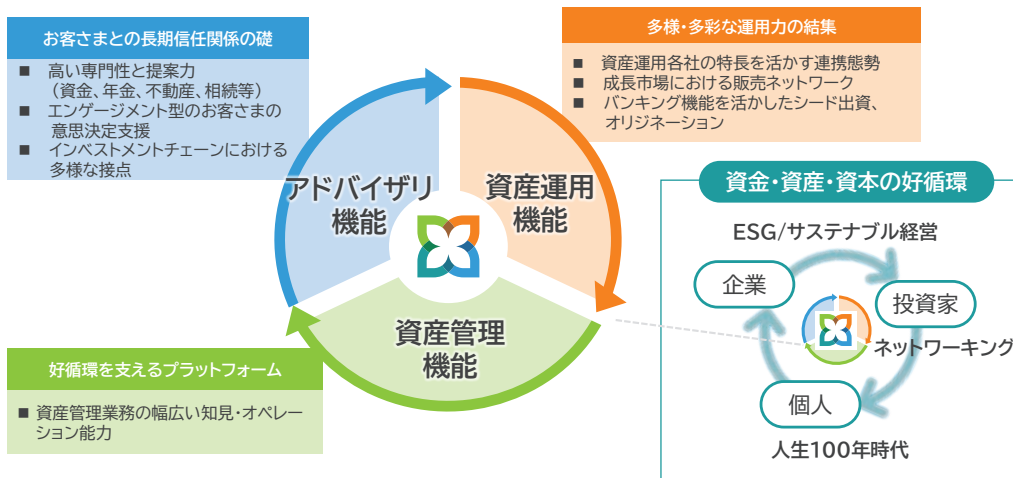
※「信託の力で、新たな価値を創造し、お客さまや社会の豊かな未来を開花させる」

## 3. 今後の取り組みについて

我が国では、「新しい資本主義」による成長と分配の好循環に向けた取り組みが進んでいます。2,000兆円を超える家計金融資産を開放して、持続的成長に貢献するため日本政府が主要政策に追加した「資産運用立国」の構想は、資金・資産・資本の好循環の実現を目指す当グループにとって新たな追い風です。同時に、当グループがより一層強いリーダーシップを発揮し、業界を先導していく局面を迎

たと捉えています。

当グループの強みは、お客さまとの長期信頼関係の礎である「アドバイザー」、多様・多彩な運用力を結集する「資産運用」、好循環を支えるプラットフォームである「資産管理」による三位一体型のビジネスモデルです。お客さまの適合性を的確に把握した上で、このビジネスモデルに一層磨きをかけ、好循環を加速してまいります。



中期経営計画の3つのテーマ	今後の取り組み
信託グループらしいビジネスの成長と資本効率の向上	「アドバイザー」では、企業の脱炭素・持続的成長を資金面で支え、投資家の立場にも立った対話を通じ、グリーンな社会の実現を目指します。また個人のお客さまには、年金・不動産業務で培った知見を活かし、人生100年時代に備え、将来のキャッシュフローや資産・負債の全体像を捉えたコンサルティングを提供してまいります。「資産運用」では、グループ各社の運用力を自律的に向上した上で、運用力のある多様なアセットマネージャーを連れ、一層の収益性向上・規模拡大を追求していきます。「資産管理」では、運用の多様化に適合するサービスを社内外に展開し、資金循環の加速を支えるプラットフォームへの進化を目指します。
未来適合に向けた人的資本強化	当グループの価値創造、総合力の源泉は「多様性」です。社員一人ひとりが持ち味を活かし、プロフェッショナルとして専門性や総合力に一層の磨きをかける「挑戦」に対し、環境整備や支援策を整えてきます。例えば、グループ内の副業やローテーション、遠隔地からの業務参画等によって、多様な人材の潜在的な能力を引き出し、生産性向上や人材育成に繋げていきます。
経営基盤の高度化	当グループは、お客さま本位の原点である「堅確な業務運営と万全な管理態勢」を徹底し、お客さまの最善の利益を追求します。フィデューシャリーとしての組織力を高度化することで、不確実性に対するリスクへの検知力を高め、リスクの顕在化を未然に防いでまいります。

## 4. 株主の皆さまへ

2024年、当グループは創業100年を迎えます。健全で豊かな未来づくりを目指した創業の原点に立ち返り策定した中期経営計画を着実に実行し、我が国の持続的成長やグローバルな市場成長の取り込みも捉えたAUF (Assets Under Fiduciary)\*を拡大していきます。当グループならではの対話やソリューションを通じて社会課題を解決し、本邦企業の価値向上の果実を、個人を含む投資家の皆さま

へ還流するため、AUF拡大を通じた「社会的価値創出と経済的価値創出の両立」の実現を目指してまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

※AUF (Assets Under Fiduciary)：当社が社会課題解決と市場の創出・拡大に貢献する取り組みの規模を示す残高（指標）

### ■ ブランドスローガンの策定について

来年2024年に当グループが創業100年を迎えるにあたり、ブランドスローガン「**託された未来をひらく**」を策定しました。

新たに策定したブランドスローガンは、当グループのパーパスをベースとし、当グループが創業以来、信託の受託者精神に立脚し、各時代の社会課題に向き合い、未来を切り開き、お客さまや社会から「信じて託される」尊さと、「未来への願い」に応えるという私たちの強い意思を表しています。

次の100年も当グループは新たな価値の創出に果敢に挑戦し、我が国の発展に貢献していきます。



詳細はニュースリリースをご覧ください。

# 業績ハイライト 2023年度中間期決算の概要（連結）

## 三井住友トラスト・ホールディングス（連結）

（単位：億円）

	2022年度中間期	2023年度中間期	増減	通期(予想)*1
実質業務純益*2	1,682	1,663	△ 19 [1]	3,300
実質的な資金関連の損益*3	1,513	1,361	△ 151	
手数料関連利益	2,175	2,265	+89	
その他の利益（外貨余資運用益除く）	396	657	+260	
総経費*2	△ 2,402	△ 2,620	△ 218	
経常利益	1,451	515	△ 935	1,150
親会社株主に帰属する中間純利益	1,040	440	△ 599 [2]	850
与信関係費用	△ 88	△ 17	71	△ 200
株式等関係損益	△ 25	△ 954	△ 929	△ 1,600
自己資本当期純利益率（自己資本ROE）	7.63%	3.07%	△ 4.56%	
1株当たり中間純利益（EPS）	279円82銭	121円34銭	△ 158円48銭	

（単位：億円）

	2023年3月末	2023年9月末	増減
総資産	690,227	731,451	+41,224
純資産	28,225	29,749	+1,523
1株当たり純資産（BPS）	7,686円52銭	8,107円79銭	+ 421円27銭

## 三井住友信託銀行（単体）

信託財産残高	256兆円	256兆円	△ 0兆円
--------	-------	-------	-------

※1 23/10/30付修正

※2 実質業務純益・総経費は、持分法適用会社の損益等も考慮した社内管理ベースの計数です。

※3 実質的な資金関連の損益は、「資金関連利益」に「その他の利益」に含まれる外貨余資運用益を加算したものです。

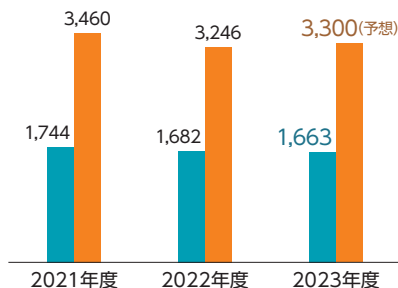
[1] 前年同期比で19億円の減益となりましたが、法人事業における与信関連手数料が好調であることや、株価上昇や円安等によるポジティブな影響により、堅調に推移しております。これを踏まえ、通期予想を3,300億円（5月公表予想比+100億円）上方修正いたしました。

[2] 政策保有株式の株価下落リスクをヘッジするために保有するペア投信のポジションの縮小・再構築を行い、△954億円の株式等関係損益を計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は、440億円となりました。これに伴い、通期予想を850億円（5月公表予想比△1,150億円）へと修正いたしました。資本・財務健全性へのマイナス影響はなく、本業の利益である実質業務純益については堅調に推移していることから、今年度の1株当たりの配当金額（220円）は変更致しません。中間配当につきましても110円をお支払いいたします。

## ■ 実質業務純益

連結：■ 中間 ■ 通期

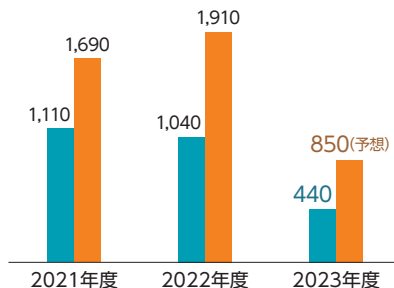
（億円）



## ■ 親会社株主に帰属する中間（当期）純利益

連結：■ 中間 ■ 通期

（億円）

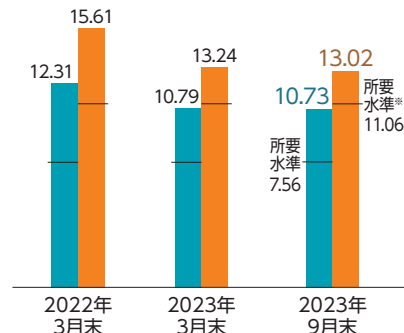


## ■ 自己資本比率等

■ 普通株式等Tier1比率

■ 総自己資本比率

（%）



※所要水準：銀行法等により定められた水準のこと



# 株主さまとのコミュニケーション広場



## WEBアンケート結果をご報告いたします

前回発行の2023年6月号にて実施しましたアンケートでは、多くの株主の皆さまからご回答をいただき心より感謝を申し上げます。頂戴しました貴重なご意見について、以下の通りご報告とご回答申し上げます。



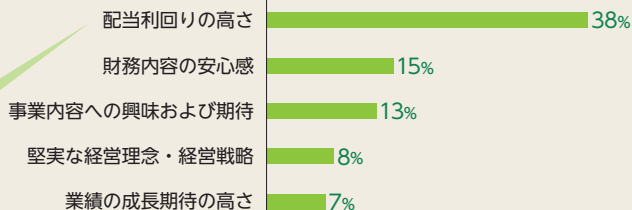
回答者数

3,899名

Q

当社株式を購入された際、  
重視されたポイントをお選びください。

重視されたポイントとして、  
「配当利回りの高さ」が圧倒的な支持を得ました。



## お寄せいただいた皆さまの声にお答えします

Q

女性活躍推進への取り組みを教えてください。

当グループは、女性社員の成長機会を積極的に提供しています。三井住友信託銀行では、2021年10月から「サポーター役員制度」を導入しました。役員自らが女性社員と定期的に1対1の対話を実施しサポートを行うほか、社外取締役の女性等が登壇する勉強会への参加や経営基礎力向上のための学習を通じて、女性社員がさらなる上位職を目指すにあたり必要となる知識の習得や視座を高める機会を提供しています。

詳しくはダイバーシティ、エクイティ  
& インクルージョンレポートをご覧ください。



Q

会社に由来のある美術館などがあれば掲載して欲しい。

三井グループには三井記念美術館、住友グループには泉屋博古館があるのをご存知でしょうか。

三井記念美術館は、重要文化財で三井住友信託銀行日本橋営業部が店舗を構える三井本館の7階にあります。建物を活かしながら美術館を創ることは大変な労力がかかりますが、文化の保存継承に取り組む三井グループによって2005年に開設されました。

泉屋博古館は住友家が収集した美術品の保管・調査研究・展示を目的として1960年に設立されました。1981年には京都にて広く一般に公開を開始し、2002年には東京にも開設しました。

両館とも一般公開されております。ぜひ足を運んでみてください。



三井本館



泉屋博古館（京都）

※2023年12月11日

～2025年春まで休館



泉屋博古館東京

# サステナビリティ

Challenge for エス・ティ・シー SDGs!

## ～ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン～

### イノベーションを起こし続ける組織へ

当グループは多彩な機能、多様な事業ポートフォリオを強みとする信託グループとして、「個々の多様性と創造性を経営に活かす」というダイバーシティ&インクルージョンの概念そのものを経営理念（ミッション）に掲げ、人的資本の向上を目指しています。

2023年から、多様な属性・背景がある社員への公平・公正（エクイティ）な支援を実施することで、当社の組織力・創造性に繋げるために、従来のダイバーシティ&インクルージョンに「エクイティ」の概念を取り入れました。パーパスの実現という同じ目的意識の下に、多様性あふれる人材が活躍し、イノベーションを起こし続ける。そういった組織、会社を目指し、より一層取り組みを加速させていきます。



### 東京レインボープライドへの参加

当グループは、LGBTQなどの性的マイノリティに関する取り組みの評価指標である「PRIDE指標」において最高評価の「ゴールド」を受賞し、三井住友信託銀行としてはコレクティブ・インパクト型\*の取り組みを実施する企業を表彰する「レインボー」も3年連続で受賞しました。また、社内のALLY（LGBTQを理解し、支援する人を指す）を増やす取り組みも推進しています。「東京レインボープライド」は、LGBTQをはじめとする性的マイノリティが差別や偏見にさらされることなく、すべての人が自分らしく誇りをもって生きることができる社会の実現を目指すイベントです。2023年4月の同イベントでは、代々木公園の野外ステージを中心に行われる「プライドフェスティバル」に企業ブースを出展し、渋谷～原宿の公道を歩行コースとする「プライドパレード」にも参加しました。

\*コレクティブ・インパクト：課題解決のために、企業や行政、NPOなどが手を取り合って協業すること



プライドパレードの様子

# 三井住友トラスト・グループのトピックス — グループ会社の取り組み —

## 三井住友トラスト・アセットマネジメント

### Family dayを開催しました！

当社初となる、家族を職場に招待するFamily dayを2023年8月23日に開催しました。沢山のご家族に参加いただき、トレーディング部の見学や、ローヤン・ドイ社外取締役の英語塾、金融リテラシー室によるパネル展示、名刺交換等のイベントを開催しました。

参加されたお子様からは、「いろんなイベントがあって楽しかった」「お父さん、お母さんの職場を見学できて良かった！」との声をいただき大好評でした。



### 「PRI in Person 2023」に菱田社長が登壇しました。

当社は2023年10月にPRI\*（国連責任投資原則）が東京で開催した年次カンファレンス「PRI in Person 2023」にてゴールドスポンサーを務めました。

10月3～5日の3日間で、グローバルにESG投資を主導する運用会社やアセットオーナーに加え、政策当局等、金融コミュニティの専門家が参加し、当社からは菱田社長が登壇しました。

\*PRI：国連の提唱により2006年に策定された、「環境・社会・ガバナンス（ESG）における諸課題を署名機関の投資の意思決定プロセスに反映させること」等を定めた機関投資家向けの原則。



左から3番目が菱田社長

### 日経サステナブルフォーラムのシンポジウムに森木専務が登壇しました。

「PRI in Person 2023」開催前日の10月2日、日本経済新聞社主催の日本の株式市場と日本企業の魅力を発信するイベント「日経サステナブルフォーラム」が開催されました。日本政府が進める「資産運用立国」の実現に向け海外金融事業者を日本に招致するイベントで、オープニングでは岸田首相が挨拶をしました。当社はパネルディスカッション「アセットマネージャー編」に森木専務が登壇し、当社が投資先の企業の持続的な成長に向けて行う対話である「スチュワードシップ活動」について、具体的な事例を交えて講演しました。



1番右が森木専務



## 社員の一日を紹介します！



大橋 優樹

(アクティブ運用部/ファンドマネージャー)

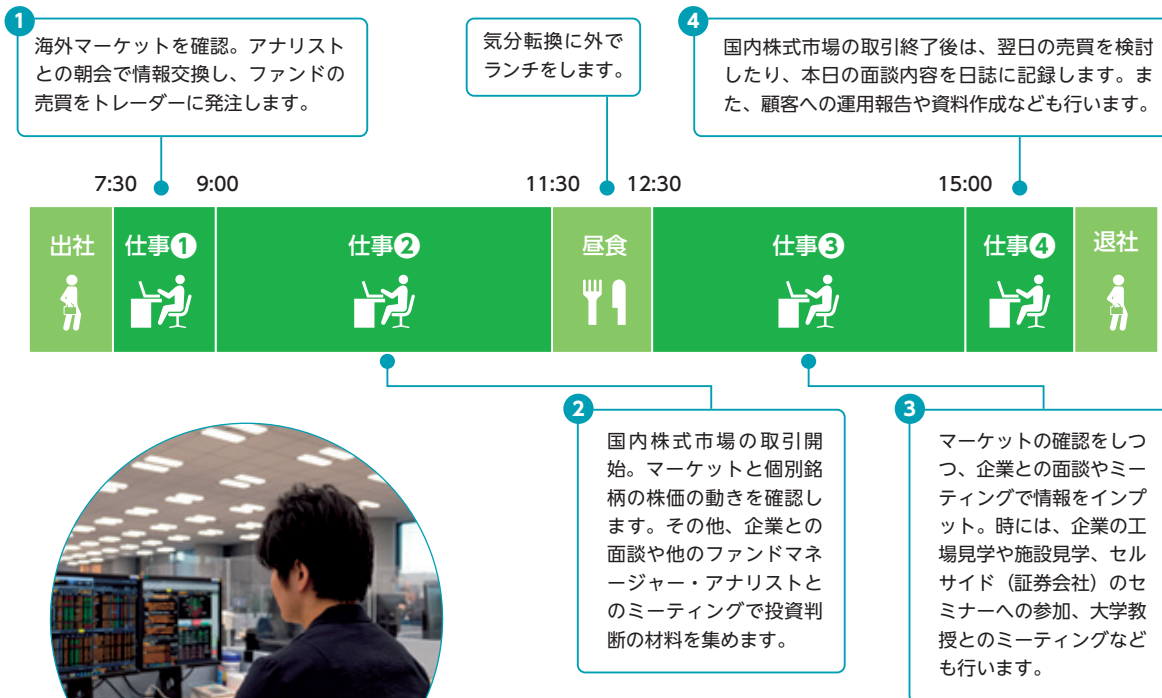


### 主な業務内容

投資家であるお客さまから預かった資金を運用方針に従って運用し、利益を創出する業務を行っています。  
ファンドマネージャーとして運用に従事し、国内外の株式やREIT（不動産投資信託）に投資を行っています。



### 一日のスケジュール



## 三井住友信託銀行

### 国内総合型インフラファンドの取り組み

三井住友信託銀行は、2023年2月国内インフラ領域を専門とする投資助言会社であるジャパン・エクステンシブ・インフラストラクチャーを設立しました。

我が国の産業や社会を支えるインフラは、今後、脱炭素化への対応や維持・強化といった課題に対応する大きな資金需要が見込まれる一方で、投資領域としては未成熟です。三井住友信託銀行はこうした資金需要と投資家の運用ニーズとの結節点を担うことで国内インフラ領域への資金循環を促していくことを目指しています。今後も投資機会の創出・提供を通じて、インフラ市場が抱える社会課題解決に貢献することで日本経済の持続的成長の実現を目指していきます。



JAPAN EXTENSIVE  
INFRASTRUCTURE



詳細はHPをご覧ください。

## 三井住友トラスト・パナソニックファイナンス

### 地方自治体に対するマイクロ水力発電システムの導入支援

三井住友トラスト・パナソニックファイナンスは、地方銀行と連携し、地方自治体等に対して株式会社DK-Power（大阪府吹田市）と協働するマイクロ水力発電システムのリースによる導入支援を行っています。

2023年4月には、群馬県藤岡市が有する南山排水池で同システムが導入されました。事業期間は20年間で、年間発電量は一般家庭70世帯分に当たる211MWh、二酸化炭素排出量削減効果は年間約108t相当をそれぞれ見込んでいます。今後も、地域の脱炭素化の支援を通じて、カーボンニュートラル社会の実現に寄与していきます。



プレスリリース



(株)DKパワーのHPより参照

## 三井住友トラストクラブ

### 不要になった衣類を寄付する「古着deワクチン」活動を実施

三井住友トラストクラブは、2023年9月、東京、大阪、沖縄オフィスで、「古着deワクチン」活動を実施しました。本活動は、不要になった衣類を寄付することで、開発途上国の子どもたちにポリオワクチン支援を行う取り組みです。また封入や発送といった作業では、障がいを持つ方々や開発途上国の方々の雇用の創出にもなっています。

今回の取り組みでは9袋分の古着が集まり、これまでに150人分のポリオワクチンが届けられました。2023年11月には2回目を開催し、今後も継続していく予定です。引き続きSDGs達成に向けた取り組みを進めていきます。



沖縄・大阪・東京での様子

## 三井住友トラスト・システム&サービス

### シニア向け無料パソコン・スマホ教室を開催

三井住友トラスト・システム&サービスは、本社を置く東京都府中市のシニアクラブ連合会に所属する方々を対象に、年1回無料の「シニア向けパソコン・スマホ教室」を開催しています。

昨今、パソコン・スマホを利用した詐欺事件が多く発生しているため、府中警察署と協働して詐欺から身を守るための知識を得る時間も設けました。

1対1で何でも質問できるようにしたところ、「なかなか聞けなかったことが聞けてよかった」、「色々な操作を教えていただきとても助かった」等のお喜びの声を頂戴し、講師を務めた職員も遣り甲斐を感じています。

これからも地域の皆さまのお役に立てるような活動を続けていきます。



## 住信SBIネット銀行

### 「三井住友信託NEOBANK」の開始

住信SBIネット銀行は、2023年9月、新たな金融サービス「三井住友信託NEOBANK」を開始しました。本サービスを通じて、三井住友信託銀行が提供する資産管理アプリ「スマートライフデザイナー」と住信SBIネット銀行の利便性の高い銀行サービスを相互にご利用いただくことが可能となり、「普段使い」に留まらず、「資産形成・運用・管理・承継」に至るまで、ライフステージに応じた付加価値の高いサービスをお客さまに提供いたします。今後も双方向で一層の協業を進め、人生100年時代におけるすべてのお客さまの「フィナンシャルウェルビーイング」実現を目指していきます。



## 三井住友信託銀行

### 「株主総会ポータル<sup>®</sup>」が2023年度グッドデザイン賞を受賞

三井住友信託銀行が提供するウェブアプリ「株主総会ポータル<sup>®</sup>」が、2023年度グッドデザイン賞を受賞しました。株主総会のDX\*化が求められる中で、株主様がスマートフォンで株主総会招集通知等の閲覧から議決権行使までシームレスに行える革新的な取り組みが、サービス性とデザイン性の両面から高く評価されたものです。三井住友信託銀行は、株主名簿管理人として、引き続き株主の皆さまの利便性の向上および発行会社と個人投資家とのコミュニケーションの向上に努めていきます。



\*DX：デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること



## 三井住友トラスト・ホールディングス

### 朝日杯将棋オープン戦への特別協賛

三井住友トラスト・ホールディングスは、2023年6月に開幕した「第17回朝日杯将棋オープン戦」に特別協賛しています。

同棋戦は、将棋界の新たな才能を発掘し、その活躍の場を広げることを目的とした棋戦で、全棋士、アマチュア10名、女流棋士3名によるトーナメント形式で行われます。6月に1次予選がスタートしており、年明け1～2月には公開対局による本戦トーナメントが予定されています。

本協賛を通じ、将棋の魅力を多くの人々に伝えると共に、文化の発展に寄与していきます。



(左から) 羽生善治日本将棋連盟会長、高倉透三井住友トラスト・ホールディングス社長

## 日興アセットマネジメント

### 車いすラグビー日本代表が2024年パリパラリンピック出場権を獲得

車いすラグビー日本代表は、2023年7月2日、車いすラグビーアジア・オセアニアチャンピオンシップで全勝優勝を果たし、2024年パリパラリンピック出場権を獲得しました。日興アセットマネジメント（以下、NAM）は、日本代表の強化指定選手2名が社員として勤務しており、2015年から日本車いすラグビー連盟の活動を応援しています。今後も、多様な人材の積極的な登用、ダイバーシティの推進と共に、障がい者アスリートと車いすラグビーの社会的認知を広めるための支援を行っていきます。



NAMのアスリート社員（左から）池透暢、橋本勝也



## 三井住友信託銀行 支店紹介

当グループがお客さまにとって一番身近な企業と感じていただけるよう、三井住友信託銀行の支店の特徴や、社員からお客さまへのメッセージをご紹介します。

### 池袋・池袋東口支店

自治体と連携して地域の課題解決に取り組んでいます。

池袋・池袋東口支店は、地域貢献の一環として豊島区等の空き家問題や生産緑地関連の課題解決に取り組んでいます。2022年12月には豊島区役所と協働で「空き家セミナー」を開催し、「空き家問題の現状・リバースモーゲージ・遺言の活用」をテーマとして講師を務めました。不動産の有効活用や相続対策なども当社の得意分野です。どうぞお気軽にご相談ください。



空き家セミナーの様子

#### 【園支店長から皆さまへメッセージ】

当店は、信託銀行ならではの高品質のソリューションを提供することで、お客さまや地域の「ベストパートナー」となることを目指し、約120名が日々切磋琢磨しています。「元祖いけふくろう」がたたずむJR池袋駅東口からすぐの好立地に建つ当店は、外の喧騒から離れてゆったりと落ち着いてご相談いただけます。皆さまのご来店をお待ちしております！



園支店長



【With you支店ブログ】で支店の活動を紹介中

こちらから、地域での活動やイベント情報など取り組み事例がご覧になれます！



#### ご当地イチ押しスポット

#### 練馬区立牧野記念庭園 一博士が愛した植物園

連続テレビ小説の主人公のモデル、植物学者・牧野富太郎博士の邸宅の跡地として、1958年より一般公開されています。庭園では約300種類の草木類が生育され、四季を通して入場者の目を楽しませてくれます。

また、2023年春には、牧野博士が実際に使用した書斎と書庫を再現した展示をオープンしました。



## 会社概要

商号	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社 <英語表記：Sumitomo Mitsui Trust Holdings, Inc.>
設立	2002年2月1日
資本金	2,616億872万5,000円(2023年9月30日現在)
本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 ☎ 03-6256-6000 (代表)
上場証券取引所	東京 (プライム市場)、名古屋 (プレミアム市場) 証券コード：8309

## 株式の状況 (2023年9月30日現在)


発行可能株式総数	890,000,000株
発行済株式の総数	普通株式 364,025,840株
株主数	普通株式 75,477名

## 配当金を「配当金領収証」で受領されている株主さま

配当金を銀行等の預金口座へ入金する手続きをしていただきまずと配当金支払開始日に株主さまご指定の口座に振り込まれ、迅速かつ安全・確実に配当金をお受け取りいただくことができます。

振込手続きをご希望の株主さまは、お取り引きされている証券会社もしくは上記株式についてのご案内に記載の三井住友信託銀行株式会社証券代行部へお申し出ください。

## 株式についてのご案内

決算期	3月31日
配当金受領 株主確定日	中間配当金 毎年9月30日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。 (電子公告のサイトのURLは、 <a href="https://www.smth.jp/">https://www.smth.jp/</a> です) ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株式事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ● 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ● 電話照会先  0120-782-031
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人

## ウェブサイトのご案内

当社の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。

